

多くの支えと出会いに感謝



こばやしつねよし
あつぎ 厚木市長(神奈川県) 小林常良



圏央道が開通した現在の依知地区の風景

私の住む依知地区は、1級河川の相模川の右岸と同水系の中津川の左岸の間に、南北約8kmの細長い河岸段丘が連なっている土地です。これに沿うようにして集落ができ、人の暮らしが始まったよう

田舎暮らしで芽生えた原点

私は昭和24年4月、農家の次男として生まれました。相模川の清らかな流れと川沿いに広がるのどかな田園、緑あふれる豊かな自然。それが、私の原風景です。

少年時代の朝は、自宅の庭で友人との三角ベースから始まりました。野球のまね事のようなもので、友人たちとゴムボールで遊ぶ登校前のひとときが毎日の楽しみでした。

放課後は川に出かけることが多く、時間を忘れてよく遊びました。家族に心配を掛け、幾度となく怒られたのですが、天候によって表情の変わる川の魅力と恐ろしさを体に染み込ませることができたのは、人生における財産になったと思っています。

の右岸と同水系の中津川の左岸の間に、南北約8kmの細長い河岸段丘が連なっている土地です。これに沿うようにして集落ができ、人の暮らしが始まったよう

です。小学校は中央の本校、南北の分校と、三つに分かれていました。距離の近い分校に通えるのは低学年まで。高学年になると距離の離れた本校まで通うこととなり、体が随分と鍛えられました。

そんな小学生の時分、私にとって印象的な出来事がありました。あれは日差しが強い夏の日、収穫したばかりの夏野菜をリヤカーに載せ、母と2人で自宅脇にある無舗装の急坂を進んでいた時のことです。休憩のために立ち止まった母が、顔にへばりつく土ほこりと汗を拭いながら「この坂道がもつと通りやすかったら、たくさんの人が喜んでくれるのにね」と言いました。母にしてみれば何げない一言だったでしょうが、当時の私の脳裏には強く焼き付きました。将来、私は「まちを良くする」「人に尽くす」ための仕事に就くわけですが、振り返れば母の一言が私の「原点」だったのではないかと思っています。

経験から学んだ現場主義

高校時代は県内から集まる仲間たちと語り、先生に反発しながらも自己を形成していった日々でした。放課後や休日に働くことに迷いがなく、自宅近くの建設会社でのアルバイトにも熱中しました。作業員の皆さんと共に汗を流し、レーキやスコップの使い方、建設・測量機器の扱いなどを教えてもらい、いつしか頼られるように



「子育て環境日本一」を目指した施策も充実

なったことは大きな自信につながりました。現場がだんだんと仕上がっていく姿を感じ、ものづくりの醍醐味を初めて味わったのがこの頃。形のないところから生み出されていく有形物は、そこに携わる人たちの汗と努力の結晶です。創意と工夫を重ねてモノを生み出していく姿勢は、ものづくりに取り組む上で私の心の中にずっと生き続けています。ちなみに当時のバイト代は、日給1000円。社長から知らぬ間に1200円に上げてもらったときは、すごうれしかったことを記憶しています。大学に入ると、現場整備を専攻しました。中でも愛知県犬山市へ赴いた実習は、



都市基盤整備の現場も視察



自治会長などとの対話を再開する筆者

アルバイトでも感じていた「ものづくりの大変さと楽しさ」をいつそう強く感じたひとときでした。これまでの授業でたくさん技術を学んできたつもりでしたが、実際の現場は机上の理論だけでは成り立ちません。「物事の本質は現場にこそある」。実習を通じて得た経験は、現在の私の信念の一つである「現地対話主義」につながっています。現在の世の中にはたくさん情報があふれ、インターネットを駆使すればさまざまなことを解決することができます。しかし、私は現場を訪れ、自らの目で見て体で感じることを大切にしています。そして、そこに暮らす人々の生の声を聴くことで、本当に必要なものが見えてくると思っています。

私のプライベートな時間

大学卒業後は厚木市役所に奉職し、土木職員として道路や下水道、駅前整備などに携わりました。プライベートでは、地元仲間たちと地域おこしに力を注ぎました。「文化的なものを根付かせたい」と囃子太鼓に挑戦

するのですが、心得のある者はいません。そこで隣の先生から教えを受け、子どもたちに指導できるまでになりました。現在、地元のお祭りなどで子どもたちの太鼓を見るたびに「やってよかった」と実感します。同時に、地域の伝統として育んでくれた仲間たちに、心から感謝をしています。

市議、県議を経て市長になると、休日はほぼなくなりました。市民活動などの場に可能な限り顔を出したいからです。ですからコロナ禍の公務激減には、寂しさを感じました。思いがけず休みは増えました。現職でいる以上は外を動き回っていたいと思っています。

厚木市は、都市と自然が調和したまちです。民間調査による「借りて住みたい街」「買って住みたい街」のランキングでは、首都圏で1位と5位の評価を獲得。ソニーや日産など優良企業が多く、現在は高速道路網を生かした企業誘致に向けた都市基盤整備に力を入れています。中心市街地では再開発を進め、市・国・県の施設、図書館や子どもに関する施設が同居する複合施設の建設も進めています。また、平成26年には民間調査による「経営革新度調査」で全国1位の評価を受け、子育ての分野では「共働き子育てしやすい街ランキング」で常に上位の評価をいただいています。



本厚木駅から望むまち並み

「このまちを良くしたい」。幼少期に芽生えた思い、支えてくれた人々からの思いやりや期待が私の原動力です。この頃、市民活動に活気が戻り、市民の皆さんの息遣いを感じる機会が増えてきました。多くの皆さんに恩返しするため、プライベートはひとまず棚に上げ、ウィズ・コロナ、アフター・コロナを見据えた元気なまちづくりにまい進していきたいと思っています。